

令和5(2023)年度 港湾振興費の内 三河港利用促進検討調査業務 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

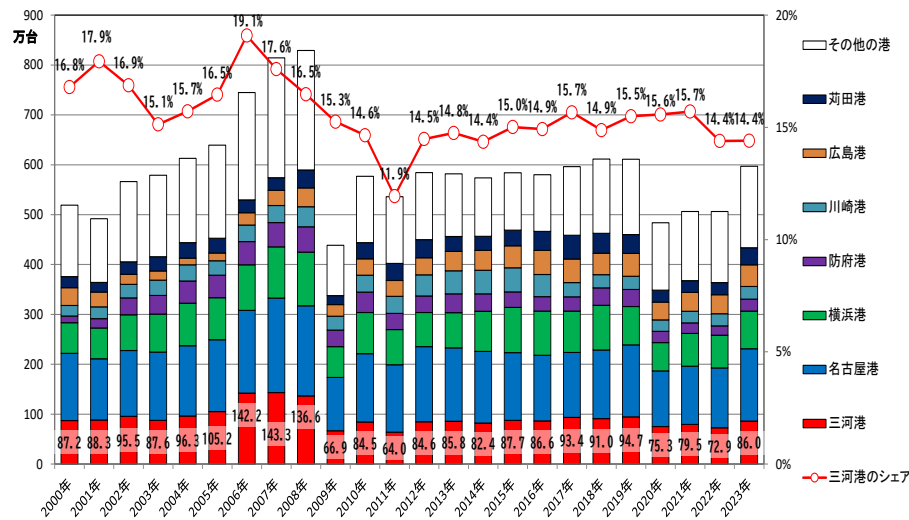
1. 業務の目的

三河港が地域産業の持続的発展に寄与する港湾であるためには、港湾物流や企業活動の適切な状況把握やそれに応じた施策の検討が三河港の振興業務として必須である。そこで本調査は、コンテナ、完成自動車の貨物について、以下4つの視点に基づいて三河港の集荷策、利用促進策を検討した。

- ①三河港背後地におけるコンテナ貨物量調査析
- ②国際フィーダー航路の検討
- ③コンテナバージ輸送の検討
- ④三河港完成自動車関連調査

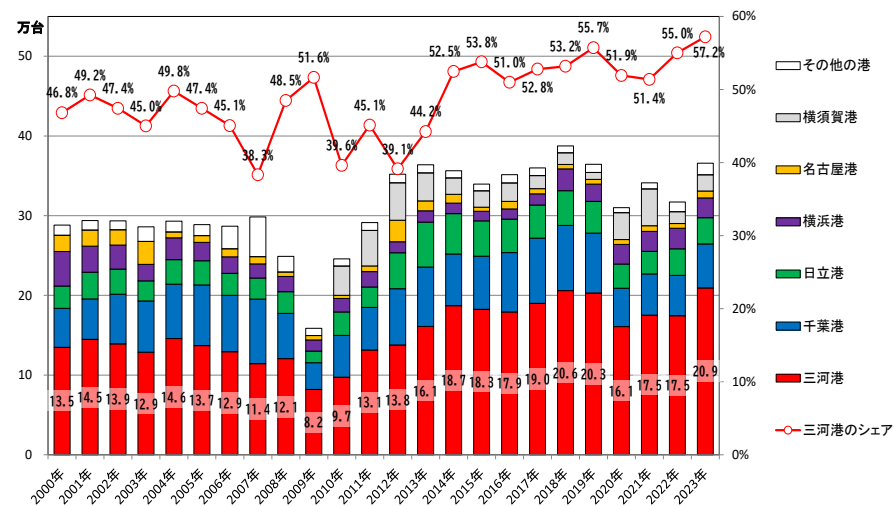
以上より、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けた取り組みの方向性を検討するための基礎資料を取りまとめた。

2. 調査結果(一部抜粋)



■輸出港湾の取扱状況

2023年の日本から海外への完成自動車輸出台数は、コロナ禍前までには回復していないが597万台、前年比18%増であった。コロナウイルス感染症拡大の影響で減少した2020年以降483万台から506万台であった。港湾別の輸出台数をみると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の145万台(前年119万台、21%増)、次いで、三河港の86万台(同72万台、18%増)、横浜港の75万台(同65万台、15%増)である。三河港の輸出シェアは14.4%である。それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が43万台(同38万台、14%増)、日産の輸出拠点である荏田港が34万台(同23万台、41%増)となった。



■輸入港湾の取扱状況

2023年の海外から日本への完成自動車輸出台数は36.5万台で、2022年と比較すると4.8万台(15.3%)増加した。港湾別の輸出台数をみると、三河港が20.9万台(前年17.4万台、19.9%増)で31年連続全国1位となった。三河港の輸出台数の全国シェアは前年比より伸び57.2%となった。

三河港に次いで、千葉港が5.5万台(同5.0万台、8.9%増)、日立港が3.3万台(同3.3万台、0.6%減)であった。これら以外には横浜港は2.4万台(同2.5万台、4.1%減)、横須賀港は2.0万台(同1.4万台、36.7%増)となった。